

県立高等学校再編計画「第2次実施計画（案）」  
に対するご意見と県の回答

県立高等学校再編計画「第2次実施計画（案）」について、ご意見を募集したところ9名の方からご意見をいただきました。

ご意見をお寄せくださいました皆さまにお礼申し上げます。

1. 意見募集期間                   平成18年4月20日～平成18年6月20日
2. 意見数                           9名：25件
3. ご意見の内容と回答

項目等	意見等の概要	県教育委員会の回答
基本的な視点について	・再編計画の基本的な視点は何か。	・生徒数が急激に減少し、子どもたちが多様化する中で、県立高等学校の質的向上を図り、子どもたちにより良い教育環境を提供するために再編計画を策定しました。
適正規模について	・計画の中の「適正規模」は、単純に人口規模（学生数）に依拠した、机上の発想しかできていないのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「適正規模」及び「最低規模の基準」は、平成12年に「県立高等学校教育問題検討委員会」からいただいた報告によるもので、この報告を重視しました。</li> <li>・この委員会は、PTA、教育関係者や学識経験者などの方々に構成されています。</li> <li>・委員の方々は、県内の高校を視察し、また高校生や保護者のみなさまの声を直接聞くなど、いろいろな方々の意見をお聞きしたうえで、他県の状況も参考にしながら検討を行い、高校生に相応しい教育サービスが提供できる規模という観点から「適正規模」や「最低規模の基準」といったものを示されました。</li> </ul>

項目等	意見等の概要	県教育委員会の回答
小規模校の良さについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この計画は、教育財政の緊縮と新たな「競争と管理」のための「適正規模」化ではないか。小規模校の利点や教育的役割の評価をせず、「はじめに小規模校切り捨て・統廃合ありき」では本末転倒ではないか。</li> <li>・統合を延期して、不登校などの生徒に対応できる小規模校の特徴を生かした存続をお願いしたい。</li> <li>・子どもたちは、生徒数が少ないからといって教育環境が悪いとは誰も思っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校の良さや教育的役割については、十分理解しています。</li> <li>・ただ、多様な個性を伸ばし社会性を身につける時期である高校生という発達段階においては、一定規模の生徒集団が必要であると考えています。</li> <li>・少子化の中で、今後は、更に生徒数の減少が見込まれ、現在の小規模校の良さを維持することすら困難となりますので、すべての子どもたちに十分な教育環境を保障するためにも、この計画を実施する必要があると考えています。</li> </ul>
振興策について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の統廃合は、地元市町村、保護者、住民、卒業生などが一体となり、他の地域から生徒を集められるように地域の高校の個性化と底上げを本当にしてきた結果なのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間の高校については、地元の子どもたちが行きたいと思える学校づくりという観点で、魅力ある学校づくりに努めています。</li> <li>・なかでも、募集停止時期を明記した大栃高校、仁淀高校については、保護者、地元自治体、住民などが一体となって両校の振興策について検討していただき、その検討結果に基づき、教員の加配、クラブ活動の活性化、地域との交流など、いろいろな取り組みをして、県外生の受け入れも含めて魅力ある学校づくりに努めてきました。</li> </ul>
高知市への集中について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の計画を実施すると、高知市内への集中と、周辺地域の教育過疎の一層の助長につながるのではないか。</li> <li>・今回の計画を実施すると、所得水準が低い過疎地域の子どもを持つ保護者の教育費の負担増へとつながり、就学環境の不平等、教育環境の有利な高知市内周辺への人口流出に一層の拍車をかけるものとなるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立高校の魅力化と活性化の方策に、学校、地域と共に取り組んでいきたいと思えます。</li> <li>・手立てを講じて、少子化に伴って教育の過疎化は進み、教育環境は後退すると思われるので、県教委としては、子どもたちにより良い教育環境を提供することを第一に考えていきたいと思っています。</li> </ul>

項目等	意見等の概要	県教育委員会の回答
将来のビジョンについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の計画を実施したとしても、将来的に高知県の教育を如何にするのかというビジョンが見えない。単なる効率化の観点からの統廃合以上の何物でもないのではないかと。高知県として教育を本当にどうするのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の次代を担うすべての子どもたちにより良い教育環境を提供するために、平成16年から10年間を見通した「県立高等学校再編計画」を策定しました。</li> <li>・第2次実施計画は、この再編計画に基づき策定するものであり、効率化の観点から県立高校の再編を進めているものではありません。</li> <li>・高知県として教育をどうするかということについては、現在、検証と総括作業を進めています「土佐の教育改革」の中でもあわせて考えていきます。</li> </ul>
高校への進学保障について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校進学を希望する子どもが客観的条件の制約により進学を断念することがあってはならない。また、どこに住んでいても無理なく通える範囲に高校があり、どの高校へ行っても共通の普通教育と専門教育が保障されるような教育制度の確立と条件整備が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校進学を希望する子どもが客観的条件の制約により進学を断念するようなことはあってはならないと考えています。</li> <li>・特に通学等で新たな負担が生じることにより進学できない子どもが生じることのないよう、新しい支援制度を考えています。</li> </ul>
少人数学級について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校の統廃合について議論する前に、「少人数学級」の実施を中心とする教育条件整備に全力を注ぐべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校の統廃合と、「少人数学級」の実施については、分けて考えたいと思います。</li> </ul>
統合後の学校像について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合先の高校についての具体的説明がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合を実施するにあたっては、両校の伝統ある取り組みを継承するとともに、統合先の高校の教育内容を見直し、魅力ある学校づくりを進めることとしています。</li> <li>・統合先の高校の取り組みについては、9月にこの計画が決定してから、順次、みなさまにお知らせします。</li> </ul>

項目等	意見等の概要	県教育委員会の回答
地域等への説明について	<ul style="list-style-type: none"> <li>各高校には、独自の創立経緯や伝統などがあり、また地元自治体からも財政的支援などを受けている。そうしたことを無視した一方的な統廃合や制度改変は許されない。</li> <li>すべての学校の当事者の意見や要求を直接聴く民主的な議論の場を保障すべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2次実施計画の策定にあたっては、県教委が一方的に統廃合を進めるのではなく、該当地域や学校に向き、学校関係者、地元自治体や住民のみなさまにも十分に説明し、ご意見をお聞きしています。</li> </ul>
意見募集について	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の意見募集も、もっとPRしないと十分な意見が集められないのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見募集を実施していることについては、新聞、テレビ、ラジオ、県のホームページなどでお知らせしました。</li> </ul>
通学支援について	<ul style="list-style-type: none"> <li>激変緩和措置は、奨学金だけでは不十分ではないか。また、下宿を余儀なくされる生徒には、奨学金の金額では足りないのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どれだけの奨学金が必要かについては、地元説明会などで具体的な金額をお聞きしながら、これから更に検討してまいります。</li> </ul>
大栃高校について	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年、大栃中学校から大栃高校への進学者がいなかったのは、昨年12月に県教委の発表があり、生徒等に動揺があったせいだと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>影響が全くなかったと断言はできませんが、大栃中学校の今年の卒業生は、それぞれの思いがあり、他の高校へ行くことを選択したということもお聞きしています。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>大栃高校は、多様な子どもたちを受け入れ、その子どもたちの成績を伸ばし、進学・就職率が100%という実績もあげてきた。高校へ行きたい子どもをケアする役割を果たしてきた。このような大栃高校の統合について、もう一度検討して先に伸ばしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大栃高校で評価されている役割については、他の高校でも同様の役割を果たすことが必要であり、そのようになりますよう努力してまいります。</li> </ul>
西土佐分校について	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元中学校の生徒数が少ないことを考慮して、西土佐分校の最低規模の基準を少し緩和してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最低規模の基準は、高校生に相応しい教育サービスが提供できる規模という観点で、教育問題検討委員会から示されたものですので、子どもたちの教育環境のことを第一に考えたうえで、判断してまいります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>西土佐分校に、国公立大学に合格できる教育課程が組める教員人事をしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在も、国公立大学への合格に向けた指導ができる教員人事をしており、昨年度も国公立大学へ進学しています。</li> </ul>

### 【その他のご意見】

- ・財政が厳しく、生徒数が減っていく状況では、市町村の小中学校と同様に県立高校も統廃合は仕方ないと思う。
- ・学校運営、学習面、学校活動全てにより効率を高め、財政の有効な活用、レベルアップを考えて再編することは必要である。
- ・地区がさびれる、活気がなくなるといふ思いはなくし、新しい方向性を見出すべきで、受益者負担も仕方ないと思う。
- ・県の方針は、中止、変更などせず、推進すべきだと思う。
- ・地域の零細校は、進学を目的とするのではなく、その土地の産業を卒業後継承するという目的の高校にしていくしかないと思う。先生の半分は、地域の人であり、卒業後の技術はもちろん、仕事上の人脈も継承して、そのうえで新しいことも取り入れられる知識を身につけられる学校なら生き残っていく力はあると思う。地域の人が、その地域をあきらめているところに高校生は行かない、残らないのではないか。